

■日漢協トピックス



第41回定期総会および創立40周年記念式典 開催

●第41回定期総会

2023年5月16日(火)、第41回定期総会がKKRホテル東京(丹頂の間)で開催された。

一昨年がWeb開催、昨年がハイブリッド形式であったため、久しぶりの会場での開催となった。



リアル開催となった定期総会

当日は、会員会社61社中、出席が35社、委任状提出が26社あり、予定されていた5件の議案すべてが承認された。なお、外部からはマスコミ7社のご参加をいただいた。

また、今回は役員改選期にあたり、臨時理事会が開催され、加藤会長をはじめ、6名の正副会長が再選された。



再選された6名の正副会長
(左から、桑野副会長、
鈴木副会長、加藤会長、
草柳副会長、栃本副会長、
小林副会長の代理出席・
和田委員長)

当日、記者に配布された会長の挨拶文では、あらためて課題の解決に向け責任を果たしていくという力強い決意と本年7月21日をもって創立40周年を迎えることへの感謝の言葉が記された。

挨拶文の骨子については、まず、「漢方の将来ビジョン2040」を策定し、本年は第1期5か年アクションプランの中間年である3年目を迎えるにあたり、漢方製剤等の有効性・安全性・品質はもちろん、基礎・臨床エビデンスの一層の集積、原料生薬の安定確保、製品の安定供給等、多くの課題に取り組む内容が盛り込まれた。

また、医療用漢方製剤等が不採算となっていることで継続的な安定供給に支障をきたしかねない窮状を、協会として国や行政に働きかけ、不採算を解消するための普遍的な枠組みを整備すべく発信していく決意が打ち出された。

さらに、一般用漢方製剤・生薬製剤の利活用推進に向けた取り組みについて、多様化する生活者の個々の状況に応じたセルフメディケーションが推進されるよう、適切な情報発信ならびに関係団体等との連携による啓発活動を行っていく内容の記載があった。

最後に、COVID-19感染拡大による解熱鎮痛剤等の出荷調整による代替や後遺症の治療ニーズを受け、漢方製剤等の安定供給に向けた取り組みをさらに強化していく意思が表明された。

● 創立40周年記念式典

定期総会終了後、会場を孔雀の間に移し、創立40周年記念式典が開催された。

まず、長年協会活動に貢献してこられた方々を対象に表彰式が行われたが、今回は表彰状授与が3名、感謝状授与が22名であった。

加藤会長から、表彰状授与者を代表し、日本粉末薬品株式会社の桑野彰一様に、感謝状授与者を代表し、株式会社阪本漢法製薬の阪本勝義様に、それぞれ授与された。その後、表彰者全員を代表し、桑野様よりご挨拶があり、謝意が述べられた。

表彰式終了後、会場を瑞宝の間に移し、国立医薬品食品衛生研究所 名誉所長の合田 幸広 先生を講師にお迎えし、「天然物におけるレギュラトリーサイエンスの推進：日漢協との二人三脚」と題し、記念講演会がハイブリッド形式で開催された。会員会社から会場で63名、Webで74名の参加があった。



表彰状授与者と役員の方々



感謝状授与者と役員の方々



ご講演される合田幸広先生